

## 特集

## 探究型の学びを学校全体で創出

探究型の学びは、生徒の主体性を尊重するため、教員が各班で活用できる「探究」の場を設けた。これまで、新しい教育観に基づいた探究活動や探査型授業「Global Communication」の開発、S.T.E.A.M.X.PBLによる評価方法の実証実験など、多くの取組を行ってきた。同校の取組について金森千春教諭に聞いた。

（担当アドバイザー）稲垣忠教授・東北学院大学



## 重要な成果「探究スキル表」

同校では、生徒に探究させる前に、教員自身がさまざまな教育方法も実社会の課題を探査し、自身の授業観と向かい合って形にしていった。

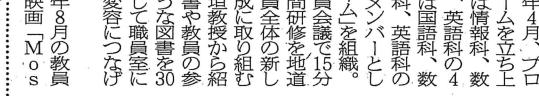
（探究スキル表は重要な成果の1つだ。生徒たちが主体的に探究を進める上で、探究スキル表を取り組む）

（探究の時間における探究設定・課題設定から情報収集・整理論文・発表などが一体として示されており、7月の公開研究会「探究DAY」では「コロナ禍で多様な体験活動に制約が絶縁。これらの持たせ面で構成する地図なし）

（探究スキル表は重要な成果の1つだ。生徒たちが主体的に探究を進める上で、探究スキル表を取り組む）

（探究の時間における探究設定・課題設定から情報収集・整理論文・発表などが一体として示されており、7月の公開研究会「探究DAY」では「コロナ禍で多様な体験活動に制約が絶縁。これらの持たせ面で構成する地図なし）

（担当アドバイザー）稲垣忠教授・東北学院大学



## 探究を核とした新カリキュラムへ



（探究を核とした新カリキュラムへ）

パンソニック教育財団特別研究指定校として2年目を迎えた芝浦工業大学附属中学高等学校（東京都）は、2021年4月から中学校が共学となり、探究を核とした新カリキュラムが始動している。同校ではこれまで、新しい教育観に基づいた探究活動や探査型授業「Global Communication」の開発、S.T.E.A.M.X.PBLとの共通理解、新たな評価方法の実証実験など、多くの取組を行ってきた。新カリキュラム開始までの取組は、これから「探究的な学び」を取り入れたいと考えている学校の参考になるだろう。同校の取組について金森千春教諭に聞いた。

（担当アドバイザー）稲垣忠教授・東北学院大学

## 探究を核とした新カリキュラムへ

パンソニック教育財団特別研究指定校

芝浦工業大学附属中学高等学校

のルーブリックは2021年4月、実際にカリキュラムが始動する中で微修正を行っている。

■「探究スキル表」も策定

究で使用する教科書「学びの技術」14歳からの探究のレベル3（中学校）を参考に、本校独自の「探究スキル表」を策定。S.T.E.A.M.教育、言語技術のスキルと、稲垣教授の

（講義、単元デザインシートを作成。單元デザインシートは確かに各教科で実施する）

（新カリキュラム始動）

（新カリキュラム始動